



平成30年10月26日

各位

上場会社名 株式会社 カワタ
 代表者 代表取締役社長 白井 英徳
 (コード番号 6292)
 問合せ先責任者 執行役員管理部門統括 橋本 真喜
 (TEL 06-6531-8211)

業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成30年7月31日に公表した業績予想および平成30年5月11日に公表した配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成31年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,900	865	815	580	81.90
今回修正予想(B)	11,948	1,182	1,215	870	122.85
増減額(B-A)	1,048	317	400	290	
増減率(%)	9.6	36.6	49.1	50.0	
(ご参考)前期第2四半期実績(平成30年3月期第2四半期)	9,011	409	379	213	30.18

平成31年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,400	1,490	1,390	980	138.38
今回修正予想(B)	23,000	2,000	2,000	1,450	204.75
増減額(B-A)	1,600	510	610	470	
増減率(%)	7.5	34.2	43.9	48.0	
(ご参考)前期実績(平成30年3月期)	20,336	1,124	1,029	909	128.44

平成31年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,100	230	275	210	29.65
今回修正予想(B)	5,616	365	485	381	53.80
増減額(B-A)	516	135	210	171	
増減率(%)	10.1	58.7	76.4	81.4	
(ご参考)前期第2四半期実績(平成30年3月期第2四半期)	4,485	31	39	24	3.45

平成31年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	390	480	380	53.66
今回修正予想(B)	11,000	600	700	550	77.66
増減額(B-A)	1,000	210	220	170	
増減率(%)	10.0	53.8	45.8	44.7	
(ご参考)前期実績(平成30年3月期)	9,801	253	321	492	69.50

修正の理由

【連結業績】

連結の第2四半期累計実績につきましては、日本、東アジア、東南アジアの各セグメントにおいて、自動車関連や電子部品関連の需要が好調であったこと等により、売上高は前回予想を1,048百万円上回る11,948百万円となる見込みです。損益面におきましては、売上高増加に伴う売上総利益の増加と売上総利益率の改善等により、営業利益は前回予想を317百万円上回る1,182百万円、経常利益は前回予想を400百万円上回る1,215百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前回予想を290百万円上回る870百万円となる見込みです。

通期につきましては、日本、東アジア、東南アジアの各セグメントの受注は総じて堅調に推移してきましたが、米国の自国第一主義に伴う貿易摩擦、中国等の新興国経済の減速、急激な為替変動リスク等、先行き不透明な部分もあり、売上高は前回予想を1,600百万円上回る23,000百万円となる見込みです。損益面におきましては、売上高増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益は前回予想を510百万円上回る2,000百万円、経常利益は前回予想を610百万円上回る2,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を470百万円上回る1,450百万円となる見込みです。

【個別業績】

個別の第2四半期累計実績につきましては、自動車関連や電子部品関連の需要が好調であったこと等により、売上高は前回予想を516百万円上回る5,616百万円となる見込みです。損益面におきましては、売上高増加に伴う売上総利益の増加と売上総利益率の改善等により、営業利益は前回予想を135百万円上回る365百万円、経常利益は前回予想を210百万円上回る485百万円、四半期純利益は前回予想を171百万円上回る381百万円となる見込みです。

通期につきましては、足元の受注は総じて堅調に推移してきましたが、米国の自国第一主義に伴う貿易摩擦、中国等の新興国経済の減速、急激な為替変動リスク等、先行き不透明な部分もあり、売上高は前回予想を1,000百万円上回る11,000百万円となる見込みです。損益面におきましては、売上高増加に伴う売上総利益の増加等により、営業利益は前回予想を210百万円上回る600百万円、経常利益は前回予想を220百万円上回る700百万円、当期純利益は前回予想を170百万円上回る550百万円となる見込みです。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成30年5月11日発表)	—	10.00	—	10.00	20.00
今回修正予想	—	14.00	—	14.00	28.00
当期実績	—	—	—		
前期実績 (平成30年3月期)	—	6.00	—	12.00	18.00

修正の理由

当社は、安定的な配当維持と業績向上に伴った株主の皆様への配当(利益還元)を充実させることを経営の重要政策のひとつとして位置付けるとともに、中長期的には安定した事業成長を図り株主価値を持続的に向上させるため、事業の進展状況等を勘案し新規事業開発や戦略投資等に内部留保資金を投下していくことを基本方針としております。

当期は、通期業績予想が前回予想を上回ったことに加えて、中長期的な配当性向や自己資本利益率(ROE)の向上と、今後の事業リスクや戦略投資に備えての内部留保の充実等を総合的に勘案し、当期の1株当たり中間配当予想、期末配当予想をそれぞれ10円から14円に修正いたします。

(注)上記の予想数値は、本資料の発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであります。
実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上